

卷 頭 言

日本表面科学会創立 10 周年を迎えて

会長 新 居 和 嘉

日本表面科学会の創立 10 周年を迎えるに当たり一言ご挨拶申し上げます。本学会は 1979 年 9 月に設立総会を開いて正式に発足して以来、途中、多少の紆余曲折はありましたが、この 10 年間、まずは順調に発展して参りました。現在会員数は名誉会員 3 名、正会員 1,286 名をはじめとして、学生会員、賛助会員、講読会員をあわせて総計 1,400 余名を数えるまでになっております。また学会の顔でもある会誌も、発足直後は発行態勢が整っていなかったため適宜 News Letter を発行しておりましたが、1980 年 6 月に会誌“表面科学”の第 1 巻第 1 号が発行されるにいたりました。この年は年 2 冊の発行にとどまりましたが、1981 年から年 4 冊、1984 年には年 5 冊、1986 年には年 6 冊の隔月刊となり、さらに 1988 年からは年 9 冊発行の態勢が整って参りました。現在これをさらに拡大して、創立 10 周年を機会に 1990 年より年 12 冊の月間誌にすべく計画中であります。このようにいろいろの面において、本学会の基盤、活動の態勢は徐々にではありますが固まってきております。これも初代会長の上田隆三先生（早大理工、本会創立の発起人で、残念ながら途中お亡くなりになりました。ご冥福をお祈り致します）、二代目会長の清山哲郎先生（九大名誉教授）、三代目会長の前田正雄先生（北大名誉教授）をはじめとする会員諸氏の努力のたまものと敬意を表する次第です。私はたまたまこの 10 周年という意義ある節目のときに会長を務めさせていただくこととなり非常に光栄に思っております。

しかし、表面科学会はこれからも発展する学会です。会員数 1,400 名でとどまる学会ではありません。近年、物質の表面物性やそこで起こる反応に対する関心は非常に高まってきております。本学会は表面にかかわるこれら分野のすべてを対象にしております。特に表面を原子レベルで解析することによって、表面に特有な構造、組成、電子状態などを明らかにし、それらの基礎的情報の蓄積を図ると同時に、それらを表面にかかわる応用分野へ橋渡しをしていくことに本学会は不断的な努力を続けてきております。

今日の科学技術の発展と動向を考えると、広範囲の科学技術分野において本学会の果たすべき役割はますます大きくなると思われれます。我々は、我々がこれまで重ねてきた努力を継続すると同時に、この 10 周年を契機として本学会のさらなる活力の向上を図る必要があります。現在、10 周年記念事業として“表面科学国際シンポジウム”の開催、会誌“表面科学”の充実、“表面科学の基礎と応用”、“表面・薄膜分子設計シリーズ”の刊行、論文賞の設置などを計画しております。これらが日本表面科学会の今後の大いなる発展につながることを期待しております。会員諸氏の本会活動にたいする今後一層のご参加とご協力をお願い致します。

(金属材料技術研究所)